

.....

午前10時57分 再 開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、6番議員の一般質問を許します。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 通告に従いまして、一般質問をいたします。

はじめに、新年度予算と各種事業についてお尋ねいたします。

さきの全員協議会で示された令和6年度の機構改革において、企画財政課が財政担当へと分離独立する旨、示されました。正に待ったなしの財政課題について専門部署として対応するものであり、評価をいたすところであります。

令和4年度の監査報告においては、財政の硬直化が進んではいるものの、数値的には全てにおいて指摘すべき点はないと報告されております。しかしながら、次年度以降の廃棄物処理施設建設の町負担を思う時、どう財政見通しを立てているのか、財調からの繰入と町債をどの程度と想定しているのか尋ねるものであります。

財政を健全域とすることは重要ではあるが、そのような状況であっても持続可能な町としていくためには、政策的な事業展開は必要であります。人口減少、少子高齢化、移住・定住対策、半農半X、ハタハタ館の運営と御所の台エリアの再構築構想、地域おこし協力隊など、これまで行ってきた主要事業で新たな進展が見込まれるものはあるのかどうか。また、新町長として新たな独自の取り組みを行う考えはあるのかどうか尋ねるものであります。

次に、風力発電事業について伺います。

ここまで進められてきた風力発電事業であります。現状での認識と感想をどうお持ちでしょうか。また、陸上、洋上ともに風車が乱立する景観をどう捉えているのか尋ねるものであります。

次に、松くい虫防除とナラ枯れ対策についてお尋ねいたします。

松くい虫被害やナラ枯れ等が多く見られる中、現在の八峰町の被害状況とその対策、今後の計画、また、能代山本管内や県内の状況について尋ねるものであります。

教育環境について、教育長にお尋ねいたします。

はじめに、八峰町におけるいじめ等による不登校児童生徒の現状はいかがでしょうか。

文科省の令和4年度の報告では、不登校児童生徒数は29万9,048人と前年度から5万4,000人ほど増加し、10年連続となっております。秋田県においても1,566人と過去最

多となっております。

当町の小・中学校の現状はどうか。そのような児童生徒がいた場合の対応と、普段から学校で何か注意をしながら取り組んでいることがあるのかどうか。

また、教育委員会と学校側との関係は良好に保たれているのかどうか尋ねるものであります。

以上4点について質問をいたします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの6番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 菊地議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「新年度予算と各種事業について」であります。

1点目の「新年度予算編成」につきましては、一般会計において、歳入の約半分を占める普通交付税は、令和3年度に合併算定替えの段階的縮減が終了しているほか、7月の豪雨災害等により町税についても増収は見込めないことから、更に一般財源が減少する見込みとなっております。

また、歳出におきましては、能代山本広域市町村圏組合で実施している一般廃棄物処理施設整備事業の建設工事費の負担金が大幅に増額となることから、非常に厳しいものと考えております。

予算編成のフレームとしましては、一般財源ベースでの歳入の見込額を算出し、歳出では、人件費などの「義務的経費」と普通建設事業費をはじめとする「投資的経費」に分類し、費目ごとに「ゼロベースからの積み上げ」や「令和4年度決算ベース」、令和5年度当初予算から「数十%縮減」等の要求基準を掲げてシーリングし、目標額を設定しております。

現在は、各課において令和6年度当初予算の要求額を積算しているところであり、来年1月上旬から約3週間にわたり一次査定を行い、その後、私の査定を行うこととしておりますので、財政調整基金からの繰入金及び町債の借入額の見通しにつきましては、2月上旬頃と想定しております。

また、財政調整基金の健全域については、一般的に、地方公共団体が合理的かつ妥当な水準で行政サービスを行うための規模を示す「財政標準規模」の10から20%程度が適正とされております。

これを踏まえると、本町の財政調整基金は「適正」ということになりますが、今回の

ように災害対応が必要となった場合に備え、しっかりと確保しておくことが重要であると考えております。

一方で、町債につきましては、令和3年度から令和5年度までの直近3カ年の当初予算時の平均では、約6億3,000万円であり、令和6年度の一般廃棄物処理施設整備事業の負担金だけで、約3億円が見込まれております。

このため、この分を加味すると単純計算では、約9億3,000円まで増額となることから、事業ごとに優先順位を定め、歳出の縮減に努めながら、実質公債費比率の健全域を確保してまいりたいと考えております。

2点目の「これまで進めてきた主要事業の新たな展開」についてであります。本町では人口減少や少子高齢化に加え、7月の豪雨災害からの早期復旧など多くの課題があり、こうした課題を解決するため、町では様々な取り組みを進めてまいりました。

今後は、これまでの事業の必要性や費用対効果などを検討し、移住・定住対策では空き家情報室の充実を図るほか、生薬事業では栽培面積の拡大等に努めてまいります。

また、「新たな取り組み」としましては、旧峰浜庁舎跡地における「定住促進住宅事業」や、「御所の台エリア再構築構想」では民間事業者を活用した事業展開とするほか、サーモン養殖事業における静穏域の拡大や女性活躍の推進など、町の財政状況を踏まえながら取り組みを進めてまいります。

次に、「風力発電について」であります。

ご承知のとおり、東日本大震災以降、日本においては温室効果ガスの排出量が増加し、2013年度には過去最高の排出量を記録したところであります。

こうした中、2016年のパリ協定においては、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度以内とすることを目標に掲げ、日本を含む多くの国が取り組みを進めております。

また、2020年10月には、当時の菅総理大臣が2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しており、再生可能エネルギーは次世代エネルギーとして国民から大きな期待を集め、導入が加速しております。

とりわけ風力発電事業においては、欧米諸国に比べると導入が遅れているものの、エネルギー資源となる「風」は、枯渇することがなく、1kWの発電に係るコストが比較的安価であることに加え、大規模に事業展開した場合、更に発電コストが下がることにより、高い費用対効果も期待できることから、陸上のみならず、洋上への設置が進めら

れております。

本町においても、沼田地区や目名潟地区などで陸上風力は運転が開始されているほか、本町及び能代市沖の一般海域においても、間もなく洋上風力発電の事業者が決定されることとなっております。

風力発電事業につきましては、民間事業者が国の関係法令やガイドラインに則り、地元住民や関係機関等と合意を図りながら適切に進められているものと認識しており、今後も必要なインフラの一つと捉えております。

町としましては、町の発展と成長への確かな道筋を付けていくためには、地域産業の振興による所得向上と雇用創出は不可欠と考えており、今後も県や地元商工団体等と連携し、風力発電が地域の活性化や人材の定着に繋がるよう取り組みを進めてまいります。

次に、松くい虫の防除とナラ枯れ対策についてであります。

初めに、松くい虫被害についてであります。県内では昭和57年に旧象潟町において初めて確認されて以来、区域が拡大し、平成24年には県内全市町村で確認されたところであります。

この被害量は平成14年をピークに減少傾向にあり、昨年度の被害量はピーク時の40%まで減少しておりますが、こうした状況は能代山本管内においても同様の状況であります。

また、町内における被害状況につきましては、昨年度412㎡であり、平成24年のピーク時と比べ92%減少しております。

町では、これまでも国や県と連携し、無人ヘリ等による防除対策に取り組むとともに、被害木については適切な伐採処分を行ってきておりますが、今後も本町にとって防災面での重要な役割を担っているマツ林を将来にわたり健全な状態で残していくため、関係機関と連携しながら防除対策に努めてまいります。

一方、ナラ枯れについてであります。県内では、平成18年に、にかほ市で初めて確認されてから被害が拡大し、これまでで最も多くの被害があった令和2年度には、本町を含む18の市町村で確認されたところであります。

被害量は令和2年度をピークに減少傾向にあり、こうした状況は能代山本管内においても同様の状況であります。

また、町内における被害状況につきましては、昨年度は1,527本が確認されておりますが、この対策として、国や県の支援を受けながら、立木伐採や搬出、くん蒸処理等を

行ってきております。

今後も町の貴重な森林資源であるナラの林を保全するため、関係機関と連携しながら防除対策や森林の若返りに努めてまいります。

私からは以上であります。

○議長（皆川鉄也君） 鈴木教育長。

○教育長（鈴木洋一君） 皆さん、こんにちは。それでは、菊地議員のご質問にお答えいたします。

本町の不登校・児童生徒数は、本人及びその家族の心情に配慮し、公表は控えさせていただきますが、本年を含む過去３年間は横ばいの状態です。

学校における「不登校児童生徒」への対応は、毎週行っている管理職と主任による運営委員会や毎月の職員会議で情報共有し、対応の仕方について協議を行っています。

直接対応する場合は、担任のほか教頭や養護教諭等の複数で家庭訪問・個人面接・保護者面談を行っています。

また、全校児童生徒の「学級・学校」生活の満足感や意欲の状況を把握するための学校生活アンケートと個人面談を年３回実施し、夏季休業中には保護者との二者面談等を行い、家庭での児童生徒の状況を把握しています。

教育委員会では、毎月の学校報告や教育委員会と学校長との協議会で児童生徒の状況や対応について確認を行っています。

学校で対応が難しい場合は、町福祉保健課や北教育事務所のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を取りながら対応しています。

このほか、能代市教育委員会より協力をいただき、能代市の適応指導教室を利用して復学を目指す取り組みを行っています。

今後も学校と家庭、関係機関が連携を図り、不登校児童生徒や保護者が孤立しないよう信頼関係を築くことに努めてまいります。

次に、２問目の質問にお答えいたします。

毎月、小・中学校と教育委員会は「学校・教育委員会連絡協議会」を開催しており、教育長・教育委員会からの学校への指示や各学校の児童生徒の様子、職員の様子、学校環境の状況等の確認を行い、学校教育に関して教育委員会と学校が同じ方向性となるように努めています。

また、各校長には、事案の大小にかかわらず、すぐ教育委員会へ「報告・相談・連

絡」をするよう指示しています。教育委員会としても学校から連絡があった場合には、すぐに駆けつけることを基本としています。

そして、時間に空きがあれば教育長自ら学校を訪問し、児童生徒や職員の頑張りに声掛けをし、また、現場の声を拾えるよう努めています。また、教育長のメールアドレスを学校職員へ開示し、何か困ったことがあればいつでも連絡もらえるようにしています。

このように、学校をしっかりと支える教育委員会、そして学校に信頼される教育委員会を目指しております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 6 番議員、再質問ございませんか。6 番菊地 薫君。

○6 番（菊地 薫君） 新年度予算について、須藤議員と、来年度の予算編成がいかに関係こそ査定されるのか大変懸念をいたすところから、同じような質問になったと思います。毎年のですが、編成に当たっては当局が大変難儀をしてる、これは十分承知してきましたので、新町長としてね、今これを新たにつくるということで、いかな方向性に向くのかな。特に財調とか数字の面で、いかに示すのかと思って伺ったわけでありますけれども、まあそれはそれとして今伺いました。

「一層の事務事業の見直し」とよく言われます。歴代ずっとそういうことを言われてきましたが、逆に見直しが必要な事業は何なのかという、どれをどのように見直していくのかという、そういうことがね、逆にどれだけ必要でないものはないわけでね、事業として。そこら辺の考え方はどうですか、町長は。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 先ほど須藤議員の答弁とちょっとかぶるところがあると思いますけれども、いずれ要らない事業はないと思っております。ただ一方で、こういった厳しい財政状況になりますと、継続事業であってもゼロベースで考える、そしてまた聖域のない見直し、これが何よりも重要だと考えております。そういったところをしっかりと令和 6 年度の予算編成には反映させて取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 6 番議員、ほかに質問ございませんか。6 番菊地 薫君。

○6 番（菊地 薫君） 財源の一つとしてね、ふるさと納税、それが非常に弱いんですね。私ども先進地視察、まあ行ってきたわけですが、報告は後ほどやるとしてね、今回の四十町さんのふるさと納税の寄附額は11億円から15億円で推移しています。もちろん返礼品の充実もあるでしょうが、まあ知名度的なもの含めて全く違った状況。それで今

年度、給食費を6,000万円無料化したということが伺ってまいりました。財源、ふるさと納税であります。これもやはり全くうちはその返礼品、充実してないという、何もないからなというそういう状況ではやはりいけないわけで、まあもちろん企業の成長も含めて助ける意味でも、やはり開発を含めてね、やっていかないと、うちの方はない、向こうは、県内でも3億円、5億円というそういう市町村もあるわけで、やはりこれは競争意識を持ってですね、やはり本腰を入れてやる必要があると思いますが、町長はいかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） ふるさと納税、私も非常に大事な財源の一つだと思っております。これに関して言いますと、実は大阪の泉佐野市というところが総務省と、ちょっと言葉が適切かどうか分かんないですけど、まあちょっとこういろいろあってですね、かなりふるさと納税には力を入れている市でございます。先だってその市長とですね私会いまして、その辺の取り組みをちょっと教えてくれないかというような話をしたら、ちょうど2週間ぐらい前ですかね、すぐに職員を派遣すると言ってくれてですね、2名の方が来て、そのふるさと納税の在り方なんかをこういろいろと協議させていただきました。今後こういった、いわゆる、ふるさと納税の先進地と言われてるところとですね意見交換をしながら、八峰町にもそういったところを反映して、ふるさと納税の増額に努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 6番議員、ほかに質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 質問の中でですね具体的な様々な事業を挙げさせてもらったんですが、その答弁として町長もいろいろ挙げられました。具体的な質問要旨として挙げていけませんので、答弁できる範囲でいいんですが、人口減少、少子高齢化、移住・定住対策、この部分、意外とですね対策としては、事業としては八峰町もそれなりに早く手を挙げて、結構政策やってきたんですよ。ところが、今、県内含めても、まあ視察先含めても、全てどこも同じことやってます。結局はそのお互いの競争の中で、どこが何を強力に打ち出して、そしてそこにプラスにしていけるか、そこなんですありますが、なかなかはっきり言って改善の見込みが立たないという、ここ数年の思いです。思い切った仕掛けがないという思いがあるんですが、町長はいろいろまた事業を挙げました。それも一つなんです、その辺の仕掛けの仕方、何かもうちょっと考えられませんか。まあできる範囲でいいですが。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） なかなか難しいご質問でございますけれども、いずれ新たな取り組みとして先ほど答弁でも申し上げましたような峰浜役場跡地へのアパート建設、そういったところを進めてまいりたいと考えておりますし、そしてまた町の基幹産業である農林漁業、こういったところにも力を入れていきたいというふうに思っております。

一方でですね、そのいわゆる例えば県内を見て、子どもが増えているところってどこかなって見ますと、実は潟上市でございます。で、潟上市長にもちょっと話を聞いたんですが、特段その子育て支援とかそういったところを手厚くしているわけではないと。で、聞くとですね、追分駅があつて、そこが近いと。追分駅は男鹿線と奥羽線が両線来るので、かなり秋田市へのアクセスが相当に便利だということで、あの辺一帯がですね相当家が建たつて、子どもたちが増えていると、そんなことを聞いております。そしてまた議員の皆様も行かれましたけれども、長野の南箕輪村ですかね、そこ行った時ですね、子育て支援しっかりとやってるんですけども、やっぱりそれ以上に、村長がおっしゃっていたのは、高速道路のインターができたのが相当にでかいと、そういう話をおっしゃっておりました。やはりそういったところを考えると、インフラっていうのは非常に大事だと思いますし、最低限どこの市町村にもなければならぬだろうというふうに改めて感じたところであります。

そういった中で、この八峰町を見ますと、県内では数少ない高速道路のない町でございます。例えば、私、これ国や県に対して要望したところでございますけども、この八峰町の役場と、そしてまた能代東ＩＣを結ぶこの路線、ここを何とか高速化してくれというようなお願いをしておるところでございます。これが実現すると、もっともっとですね町からのアクセス性の向上も図れますし、そしてまた人も多く呼び込めると思っておりますので、そういったところにも力点を置きながら進めていきたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 6番議員、ほかに質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） この頃ですね亡くなられる方が非常に多い、本当にお気の毒なんですけども、人口減少という、すごいしみじみとを感じるわけですよね。そういう意味で本当に様々な事業を行政でやっていく、やはりそこら辺の重要性がね、私の議員としての責任も含めて非常に感ずることがあります。

それでもう一点、ハタハタ館の運営ですが、実はハタハタ館の運営は、まあ決算等も

拝見しました。黒字化なってるわけですが、レストラン部門、それがずっと閉鎖してまいりました。私、今回この場で町長に社長として伺おうと思ったんですが、昨日新聞に広告出てまして、何かオープンしたんですか。してみたいです。

まあそれはそれとして、ハタハタ館の指定管理料が改定された。それで黒字化になった。この先また常務取締役も設置したということで、今後ですね、やはりこの展開を図っていくために、町長やはりそのどっぷり浸かるんじゃないくてね、それでも欠損金は9,000万円以上あるんですから、それをやはりわきまえてですね、やはりその社長としてその運営に当たっていただきたい。その辺の思いを一つお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） この場は町長という立場でありますので、ちょっと社長としてのコメントは差し控えさせていただきますけれども、町長といたしましては、ハタハタ館、町民の皆様が数多く利用している施設でございます。町としましてはですね、まあ今の状況をキープしつつ、また御所の台エリアの再構築構想もありますので、そういったところとしっかりと絡めて今後の在り方を検討してまいりたいというふうに考えております。

○議長（皆川鉄也君） 6番議員、ほかに質問ございませんか。

○6番（菊地 薫君） 1問目は終わります。

○議長（皆川鉄也君） 2問目の再質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 堀内町政が誕生して1年なるわけですが、この間ですね風力関連に関しては、一般質問等ありましたが、なかなか自らの思いというのを聞く機会がありませんでした。先ほどそれなりの思いをじっくりと聞かせていただきました。森田町長とはそれぞれの議員が丁々発止の議論をやりとりした経緯がございます。そういう思いで質問をいたしました。

ところで、鹿の浦から眺望した場合に男鹿半島の寒風山、あの前面にもう風車が建っています。全くもって景観が変わりました。それと今、八峰・能代沖がまた事業化されますと、計画は出てますし、もう来年春ですか、決まりますとまた建設されます。じゃあ真山・本山の方、要するに男鹿半島を前面に一帯になるんでないかという危惧をいたしてるんです。もちろんね、その前に建てば変わるわけですが、これが景観を損なうという質問を私は森田町長にいろいろやってきたんですよ。町長はどう思われますか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 私個人の意見として述べさせていただきますと、鹿の浦からの展望、私も地元が浜田ですので、よくあそこからの景色を見ているところでございますけれども、まあ私の中ではですね、沼田地区なんかに建たりました陸上風力を見て、率直に言って、その景観が損なわれているというような意識はございませんでした。むしろですね夜になると明かりが灯って、あそこに何か大きなまちがあるんじゃないかという勘違いするほど、まあむしろこう好感をもって見ているところでございまして、すいません、ちょっと景観が変わったとかあんまりそういったところは、悪い意味では感じているところではございません。

○議長（皆川鉄也君） 6 番議員、ほかに質問ございませんか。6 番菊地 薫君。

○6 番（菊地 薫君） もちろんこれ個人の感覚ですからね、何とも言いようないわけですが、この特に洋上風力に関しましてはね、まあもちろん健康被害、あるいはその漁業に与える影響、そして今、景観等々、この知見がないからこそ、なかなかリスクというものを捉えられないんですよ。だからそれが心配なために反対運動やら何やらいろいろやってきてわけであります。まあ個人の違いでどうにもならないわけですが、前町長は、そこは5 km離れている、あるいは事業者の責任でそれはないようにやるだろうと、こういう説明で一貫したわけですが、町長がそう思われるのであれば私は何もそれ以上言うことはないわけですが。

それから一つですね、先だって先月の新聞紙上ですが、「脱炭素の切り札として欧米で開発された洋上風力に逆風が吹いている」という新聞記事ありました。読まれたかと思いますが、要するに世界でスウェーデンの電力大手やデンマークの洋上風力大手、プロジェクトから撤退すると発表しているんです。世界的な供給網の混乱、資材高騰、あるいは中央銀行の利上げ等々、採算性から開発が頓挫した計画もございます。このことが相次いでまして、業界ではですね、今後この普及に水を注すものと、こう危惧をしていると、こういう記事がございました。町長ご覧になってどうでした。聞いてませんか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの……休憩します。

（「休憩、休憩をお願いします。」と呼ぶ者あり）

○議長（皆川鉄也君） 休憩いたします。

午前 11 時 32 分 休 憩

.....
午前 11 時 32 分 再 開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） すいません、ちょっとその記事はちょっと見たことがなくてですね、すいません、失礼します。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） まあ国策としてね、このやられてきているこの風力事業ですね、またいかなる事業であってもいつどうなるか分からない、そういう環境下にあるとね私はこう思った次第でして、その部分で質問いたしました。

2番はこれで終わります。

○議長（皆川鉄也君） 3問目についての再質問ありませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 被害額が年々減少しておる報告なっておりますが、ナラ枯れ対策はね、ナラ枯れというのはもう私は、まあ枯れていってもまた次々と新しいその若木が育ってくるという感覚から、そんなに私はね、景観は本当に見苦しいものありますよ、山肌見れば。でもそれは改善していこうと、私はこう思っています。

ところがこの松くい虫対策ですね、松くい虫、まあ我々道路走れば、砂防林含めて常に見て回るわけですよ。先だって、まあいつも通る中で峰浜のカントリークラブ、ゴルフ場の中の松の被害というのは最悪です。町長もゴルフやられて分かると思います。もうコース、コースの境が全て松枯れなってます。私ね一つの企業であるんですが、以前町としても補助したことはありますけども、どうでしょうね、これまあ一つの町内に、自治体にゴルフ場を抱えている町。そしてまた一つの観光としてね、そういう役割も大きなことをしているわけですから、一回まあ協議、ちょっと伺ってみる、まあ率直な感想をですね、あれを見て、町長どう思われますか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの6番議員の質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 松枯れに関しましてはですね、そのゴルフ場もそうなんですけども、まあ私の住む浜田地区からずっと峰浜地区にかけてずっと松林があるんですが、そこも相当松くいにやられてるなというふうな印象でございます。ただ一方で、また新たに生えてきているような松もありまして、そういった対策をやっぱり今後も進めていかなきゃなというふうに感じておるところでございます。

また、そのゴルフ場に特化して言いますと、私もあんまり行ったことはないんですけども、何て言うんですかね、今枯れてるっていうのは分かるんですけども、しっかり

していた時の状況が私ちょっと記憶にないものですから、なかなかその比較ができないんですけども、まあいずれ松が枯れてるっていう状況は把握しているところでございます。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 作業をしてる、それこそ枯れ松を伐倒してるんですよ。これが10本、20本、100本、200本なら、いずれなと思うんですが、そういう規模じゃないんですよ。だから大変だろうなという思いで私見てきたんですが、そういう思いをですね、まあ町としてちょっと届けたくてですね、今質問いたしました。それぞれ把握しておいてほしいと、こう思います。

3番終わります。

○議長（皆川鉄也君） 4問目の教育環境についての再質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 先ほど教育長の丁寧な回答をいただきました。ありがとうございます。それほどきめ細やかに対応されているということで、まあ安堵した次第であります。プライバシー云々と言われますと、なるほどなと、こう思ってなかなかそれ以上聞けないわけでありましてけれども、いた、いないという、そういうことを質問の中で伺おうと思ったんですが、まあこれはやめておきます。丁寧な説明で理解をいたしました。

それで1点だけですね、児童生徒が不登校と判断される基準というのはどこにあるんですか。そこをお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの6番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。鈴木教育長。

○教育長（鈴木洋一君） 菊地議員のただいまの質問にお答えいたします。

年間で30日以上休んだ児童生徒は、不登校と扱っております。30日未満の場合は、不登校傾向児童生徒として扱っております。

ということで、以上です。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 分かりました。

それからですね、先だって教育委員会の方から事務事業の点検評価報告いただきました。そこで外部評価委員が2名なっておりますが、これ以前から2名のままですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの6番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。山本

教育次長。

○教育次長（山本節雄君） ただいまの菊地議員のご質問にお答えいたします。

外部評価制度が導入されてから2名の委員さんでお願いしております。

○議長（皆川鉄也君） 6番議員、ほかに質問ございませんか。6番菊地 薫君。

○6番（菊地 薫君） 単純にね、その評価する内容を見てみれば、意外と幅広いんですよ。教育委員会関連でこれを。どうかなと思って今見たんですが、まあ検討の余地があるのかないか別として、2名でちょっと不足なんでないかなと、私そう思いました。もう一回答弁をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの6番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。鈴木教育長。

○教育長（鈴木洋一君） ただいまの菊地議員の質問にお答えいたします。

外部評価委員会2名からいろいろこう評価、ご意見をいただいておりますが、それと教育委員会の定例会等もありますので、いろんな方々の意見を聞きながら次年度に向けて対応してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） ほかに質問ございませんか。

○6番（菊地 薫君） ありません。

○議長（皆川鉄也君） これで6番議員の一般質問を終了いたします。

休憩いたします。

午前11時40分 休 憩

.....